



域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する。

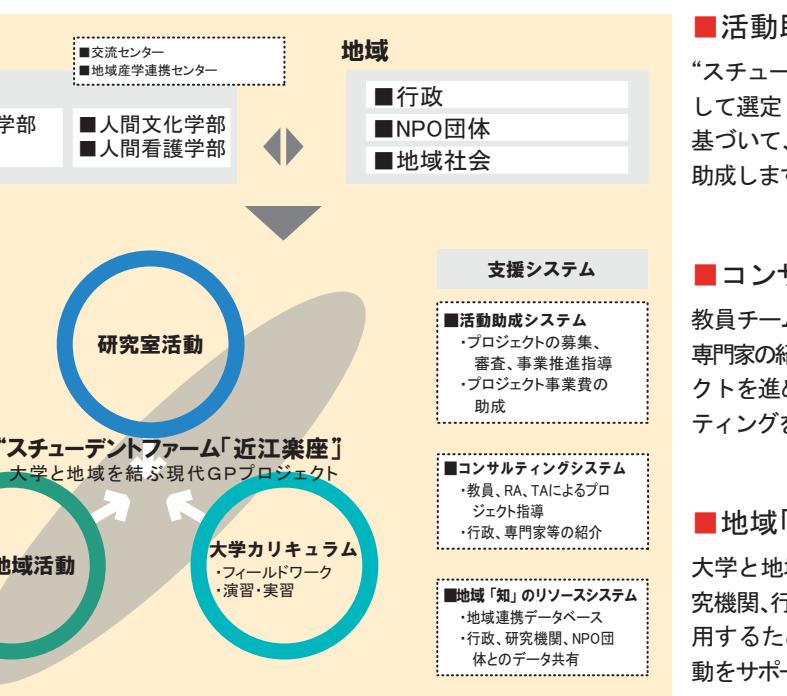
GPで大学と地域の連携を深めます。

- 「活性化」に寄与するプロジェクトを現代GPで支援
学の“スチューデントファーム「近江楽座」一まち・むら・くらしふれあい工舎”は、地域を
大学の演習、フィールドワーク等のカリキュラムや教員、学生の地域を対象とする研究
「地域活性化」に寄与するプロジェクトを募集、選定し、全学的に支援する教育プログラム

年度-18年度、3年間にわたる大学改革補助金の活用
は、まちづくり、むらおこし、地場産業、地域医療などに関わる24のプロジェクトを採用
団体、市民など多くの関係者の協力を得て地域活動を推進してきました。
は、これまでの活動を地域に根づかせて行くために、発展性のある15プロジェクトを継

主体の地域活動をサポートする3つのシステム

ントファーム「近江楽座」は、選定した地域貢献プロジェクトに対して、以下のシステムによつ
ポートします。



湖国滋賀の歴史、文化、自然が、
私たちのフィールドです。

滋賀県立大学は、湖国滋賀をフィールドに、湖南、湖東、湖西、湖北の各地域で教育、研究活動を展開してきました。これらの成果を地域や社会に提供するとともに、地域文化の創造、産業の振興、生涯教育の拡充などの地域課題へ取り組み、県民の期待に応える大学づくりを推進していきます。学生たちの地域貢献プロジェクトを支援する“スチューデントファーム「近江楽座」—まち・むら・くらしふれあい工舎”の取り組みから、地方分権の時代を見すえた大学と地域の新たな連携の構図が見えてきます。

平成
滋賀県立
育改革の
に創設し
プログラ
トファー
らしふれ
ました。学
的、資金的
ムで、初年
事業をス
1500万円。

【新聞】滋賀
中日、産経、
事(読売、毎
読売、毎日)
部会(京都、

平成
平成17年
を受ける
平成16年
クトを選

大学は、文部科学省が「大学教 4

- 大学は、文部科学省が「大学教支援策」として平成16年度新規た「現代的教育ニーズ取組支援ム(現代GP)」に、「スチューデンム「近江楽座」一まち・むら・くあい工舎」を申請し、採択され学生主体の地域貢献活動を専門的にサポートする教育プログラム。年度は24プロジェクトを選定し、タートさせました。(事業費)

県立大学の現代GP採択記事(朝日、読売、京都)、「近江楽座」プロジェクト募集記事(日)、とよさと快蔵プロジェクト(朝日)、エコキャンバスプロジェクト(生き物中日)、ほか3件、計15件

■人間文化学部
■人間看護学部

 - 4.
 - 5.
 - 6. ■現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)公表／文部科学省
 - 7. ■現代GP文部科学省説明会(京都)
■現代GP申請書提出
 - 8. ■現代GPヒアリング／文部科学省
 - 9. ■現代GP採択決定通知／文部科学省
 - 10. ■現代GP交付決定通知／文部科学省
■平成16年度「近江楽座」プロジェクト学内募集
 - 11. ■「近江楽座」プロジェクト学内選考
 - 12.
 - 1.

第1回現代GPシンポジウム
地域と大学を考える・地域活性化とは-
大学と地域の連携いかなる意味を持つのでしょうか。大学、行政、市民それぞれの立場から、地域への取り組みの可能性について議論しました。

第2回現代GPシンポジウム
地域と大学を考える・地域課題への取組み-
地域にはさまざまな課題があります。大学の専門性と地域が抱える課題をどのように結びつけるか、大学と地域の新たな関係を築き上げる必要性について議論しました。

第3回現代GPシンポジウム
地域と大学を考える・地域へ根付くとは-
過去・現在・未来を生き続ける地域と学生の出会いから何が生まれるのでしょうか。学生たちの目線で発見した地域の課題と魅力を手掛かりに、大学と地域の連携を定着させたための課題について話し合いました。

17(2005)年度

度は、文部科学省による支援
3カ年内にあります。
度からの継続を含む26プロジェ
定し、「近江楽座」としての活
に根付かせていくために、指導、
サポート体制を強化しました。
とおして大学と地域の新たな
築を目指しています。(事業費
)

- 「近江楽座」プロジェクト相談会

■「近江楽座」プロジェクト予算補正

■平成17年度「近江楽座」プロジェクト報告書

おうみ市民活動フォーラム2005出展
プロジェクトバナル展示/ひこね市文化プラザ

滋賀県県民環境学習のつどい
プロジェクトバナル展示/滋賀県立琵琶湖博物館

第5回現代伊シンポジウム
第6回現代伊シンポジウム



01 「リバーオウチングin安曇川」
チーム名:「リバーオウチングin安曇川」(15名)

リバーオウチング

私たちは、人間文化部地域研究室が小大連携の取り組みとして、5年前から参加してきた、高島市立安曇川学校における総合学習「リバーオウチングin安曇川」をベースに活動しています。これは、安曇川流域をフィールドに、河口から源流まで踏破し、自然環境や地域の文化を小学生と共に学習するものです。子どもたちとの交流をおとして地域に学ぶ!姿勢の大切さや、地域と人々の暮らしの係りについて共に学んでいます。

■活動場所: 滋賀県高島市安曇川町~朽木地域~大津市葛川地域一帯
活動頻度: 年に12回程度
代表者名: 渡辺大記(人間文化学研究科)
関係団体: 高島市立安曇川小学校

02 市民および医療に携わる人々とのふれあいを通して志向する未来看護塾

チーム名: 未来看護塾(80名)

未来看護塾

未来看護塾は、地域の人々や医療現場で働く看護師の方々と、ボランティア活動を通して交流を図り、人がして生きていく、その生き方を支える未来の看護のあり方を見出していくいます。具体的な活動内容として、彦根市立病院小児科病棟の子どもたちとの遊びや、「NPOっぽいハウス」における高齢者や子どもたちとの交流を行っています。また看護師や施設スタッフと意見交換をとおして、学生の立場で地域医療に関わっていきます。

■活動場所: 彦根市立病院、特定非営利活動法人NPOっぽいハウス、ほほクラブ
活動頻度: 週に3~4回
代表者名: 鈴木絵夢(人間文化学部)
関係団体: 彦根市立病院、特定非営利活動法人NPOっぽいハウス

03 再興湖東焼プロモーション事業

チーム名: UTSUWA(35名)

湖東焼

私たちUTSUWAは、彦根の陶芸家、中川一郎氏の協力のもと、彦根の焼き物である「湖東焼」の再生と普及を目的として活動しています。NPO法人「湖東焼を育てる会」と連携しながら、陶芸教室やアーチェスタ勝負市での器販売、ロクロ体験教室、信楽での穴窯体験など、土に触れる楽しさや、陶芸の魅力を知つてもらうための様々な活動を行っています。今年度はHPでの広報にも力を注ぎ、伝統産業を生かしたまちづくりに結びつけています。

■活動場所: 彦根市立病院、特定非営利活動法人NPOっぽいハウス
活動頻度: 不定期
代表者名: 石井光司(人間文化学部)
関係団体: NPO法人湖東焼を育てる会
<http://www.kotoyaki.com/>

04 吾川村下名地区地域活性化事業

チーム名: ドラマ下名(35名)

ドラマ下名Ⅱ

2年目となった私たちの活動。その活動拠点となる吾川村立小学校が、2004年4月1日山村立小学校『しもの郷』としてオープンしました。この宿泊施設は、既にリビングがいるほどの宿泊設備があり、地域の空気が活き活きとしてきたことを感じます。私たちは、地域住民がこの施設の運営に楽しみながら参加し、共にこの「しもの郷」の気を維持し、活性化を図っていくための、地域の良き「サポーター」として、活動を継続します。

■活動場所: 高知県吾川村立下名野川地区、山村立小学校「しもの郷」
活動頻度: 2ヶ月に1回(現地入り)
代表者名: 万野晶子(人間文化学部)
関係団体: 山村立小学校「しもの郷」、高知県企画振興部地域づくり支援課、(有)ファクトリー

05 発信基地in朽木の森

チーム名: KTT(36名)

朽木の森

地域を作る者は「人と人」。私たち、過疎化、高齢化の進む朽木の森を拠点に、人のつながりを大切にした地域おこしに取り組んできました。現在、発信基地を取り組まれているまちづくり活動の中心にあります子どもたちの存在です。私たちは、次代を担う子どもたちが「機を知り、確で遊ぶ」機会をつくるための子育てサロンをサポートするなどの活動をおこして、まちづくりの主役である地域の人々と共に、これからを見つめ、考え、行動していきます。

■活動場所: 米原市朽木公民館、共コミュニティセンター
活動頻度: 月に2~3回
代表者名: 鶴越靖之(人間文化学研究科)
関係団体: 米原市発信基地まちづくり推進委員会

06 いそっ機

チーム名: いそっ機(10名)

いそっ機

米原市磯区は、琵琶湖、礎山、入江干拓地に囲まれた地理的条件のもとに、独自の生活様式を培んできた地域です。現在、磯地区を取り組まれています。私たち、次代を担う子どもたちが「機を知り、確で遊ぶ」機会をつくるための子育てサロンをサポートするなどの活動をおこして、まちづくりの主役である地域の人々と共に、これからを見つめ、考え、行動していきます。

■活動場所: 米原市磯公民館、共コミュニティセンター
活動頻度: 月に4~5回
代表者名: 亀山香秀(人間文化学研究科)
関係団体: 近江八幡市産業経済部商観課
<http://www.shc.usp.ac.jp/hanazaki/aboutteam/himure/himure.html/>

07 「蔀戸のある家」の保存と活用

チーム名: 日牟礼楽座(20名)

日牟礼楽座

「蔀戸」を持つ旧吉田家は、近江八幡市に寄贈された近代初頭の建築で、文化財的価値のある調度品が数多く残されています。「蔀戸」は、二階まですり上げると建物の前面を開口することができる。八幡商家の特徴の一つです。この「蔀戸」という景観的特徴を活かした旧吉田家の保存・活用の方法を探り、行政や地域の人たちとともに、近江八幡の新たな景観資源・観光資源の創出を目指しています。

■活動場所: 近江八幡市多賀町、旧吉田家
活動頻度: 月に4~5回
代表者名: 亀山香秀(人間文化学研究科)
関係団体: 近江八幡市産業経済部商観課
<http://www.shc.usp.ac.jp/hanazaki/aboutteam/himure/himure.html/>

08 「土戸のある町家」の保存と活用

チーム名: 七曲がり楽座(15名)

七曲がり楽座

旧村岸家は、彦根城下町外縁部の「七曲がり」地区にあり、江戸後期の町家の特徴である土戸を今に残しています。私たちは、この土戸を貴重な景観資源として注目し、旧村岸家の実測調査を行って基礎資料を作成しました。また、「七曲がり」にある他の伝統的町家の実測調査も進めています。今後は、家屋内部の整備、復元を試みつつ、町家の公開やイベントも計画するなど、調査結果をもとに旧村岸家の保存・活用方法を地域住民とともに模索していきます。

■活動場所: 彦根市 旧村岸家
活動頻度: 月に4~5回
代表者名: 望永翠(人間文化学部)
関係団体: NPO彦根景観フォーラム
<http://www.shc.usp.ac.jp/hanazaki/aboutteam/nanamagarai/nanamagarai.html/>

09 TTP +

チーム名: 木匠塾(20名)

Taga

木匠塾は、多賀町にある多賀大社門前町の活性化をテーマとして活動しています。今年は万灯祭に参加し、地域の人々と地元の木を使って作った行灯で川沿いをライトアップするなど、祭大に盛り上げました。昨年度末より始まった木造の日は、私たちと地域の人との大切な対話の場です。新たな企画として「駅前大看板づくり」を手伝など、地域との連携を深めながら、まちを元気にする活動を進めています。

■活動場所: 大上郡多賀町
活動頻度: 不定期
代表者名: 深井奈緒子(人間文化学部)
関係団体: 大上郡多賀町、賀茂役場、門前共全会、多賀町商工会
<http://www.ses.usp.ac.jp/lab/mokusyo/>

10 Let's複合

チーム名: 廃棄物バスターズ(8名)

廃棄物バスターズ

私たちは、「ポリエチレン(PE)材料とポリプロピレン(PP)材料を相溶化させるための技術開発」及び「リサイクル材料の地域緑化への用途開発」など廃棄物の有効利用をテーマに環境と調和した地域社会づくりを目指すための基礎研究に挑戦しています。各種の相溶化剤を添加したフィルムの製作やこれらの衝撃試験などを通じて、相溶化剤添加がPP-PE/相溶化剤系材料の力学的性に与える影響を調べ、実用的な強度をもつ新材料の開発を目指します。

■活動場所: 大阪北部工業技術センター
活動頻度: 週に4回以上
代表者名: 中山重哉(工学研究科)
関係団体: 東北工業技術センター、安土産業(株)

11 三津・海瀬町市民農園プロジェクト

チーム名: RE CULTIVATORS(再耕植するものたち)(21名)

再・耕・築

私たちは、環境共生時代における農業の可能性を見出しこれまで農地の再生などの取り組みを展開していました。お年寄りへの聞き取り調査や実地踏査を通じて、生活の人々が育ってきた五感の記憶を明らかにし、地域イメージを絵図として表現・制作します。2005年度はさらに新たな物件に取り組むとともに、町の祭など地域イベントへの企画、運営、参加を通じて、町の人と連携、信頼を深める活動を継続しています。

■活動場所: 大阪府彦根市鶴枝地区
活動頻度: 週に2~3回
代表者名: 水野智博(環境科学研究科)
関係団体: 三津海瀬土地利用委員会
<http://toyotoyo.wablog.com/>

12 とよさと快蔵プロジェクト

チーム名: とよさと快蔵プロジェクト(72名)

快蔵

とよさと快蔵プロジェクトは、豊郷町において、NPO法人「とよさとまちづくり委員会」と協働し、空き家や空き蔵の再生などの取り組みを展開しています。お年寄りへの聞き取り調査を通じて、生活の人々が育ってきた五感の記憶を明らかにし、地域イメージを絵図として表現・制作します。完成後は絵解説や紹介会議などを通じて、町の祭など地域イベントへの企画、運営、参加を通じて、町の人と連携、信頼を深める活動を継続しています。

■活動場所: 豊郷町大字豊郷町
活動頻度: 週に1~2回
代表者名: 木俣佐知子(環境科学部)
関係団体: 特定非営利活動法人とよさとまちづくり委員会
<http://toytoyo.wablog.com/>

13 描こう八幡生活絵巻!

チーム名: とよさと快蔵プロジェクト(72名)

生活絵巻

県立大学の地元である八幡町で、懐かしい地元の暮らしを一枚の絵巻に描くという活動を行っています。お年寄りへの聞き取り調査や実地踏査を通じて、生活の人々が育ってきた五感の記憶を明らかにし、地域イメージを絵図として表現・制作します。2004年には二つの物件で学生の共同生活の場(シェアハウス)として改修・オーブンしました。2005年度はさらになれたん物件に取り組んで実現・制作します。完成後は絵解説や紹介会議などを通じて、町の人と連携、信頼を深めることを目指します。

■活動場所: 豊根市八幡
活動頻度: 週に1回、絵図製作活動:随時
代表者名: 戸田洋一(人間文化学研究科)
関係団体: 八幡語り部会
<http://toyotoyo.wablog.com/>

14 BIWAKO“近江八幡”ビエンナーレ

チーム名: BIWAKOビエンナーレ県大学生実行部(7名)

ビエンナーレ

BIWAKOビエンナーレ実行委員会では、滋賀県内で2年に一度、アートイベントを企画・開催しています。2004年には、近江八幡市のまちなかで実施され、引き続き2006年も予定しています。私たちは、県立大学で建築やランドスケープを学ぶ学生の立場で、アートによるまちの活性化について研究する目的からプロジェクトに参加しています。アートという共通項をとおして地域と住民、大学と地域の新しい連携の形を追求していきます。

■活動場所: 近江八幡市、大学
活動頻度: 定例会: 週に1回
代表者名: 井上洋一(環境科学部)
関係団体: BIWAKOビエンナーレ実行委員会
<http://www.ses.usp.ac.jp/biwn/>

15 社会資本としての集住体プロジェクト

チーム名: ちーむはっけい(20名)

ちーむ はっけい

私たちは、1999年の結成より、社会資本としての集住体とは何かを考え活動してきました。その中で、本来集まって住む形の原型が集落にあると考え、継続的に滋賀県彦根市にあります集落の調査分析を行ってきました。昨年度は、湖岸の集落を中心と調査活動を行うほか、今までの活動成果をまとめて住む形として編集・制作しました。さらに、草津市にも活動の幅を広げ、集落調査や地元のイベントの企画、運営にも携わっています。

■活動場所: 彦根市、草津市
活動頻度: 月に2回程度
代表者名: 千葉知智(環境科学研究科)
関係団体: 山田21まちづくり推進委員会
<http://www.f2d.net/usupini/>

16 竹林プロジェクト

チーム名: エコキャンバスプロジェクト生き物部会(15名)

竹林

犬上川河辺林は、人が管理しなくなったため、竹が繁殖し、ぐく、生き物が住みにくく環境となっています。私たちは、この河辺林の管理に取り組み、竹を伐って林内を明るくし、生き物が棲みやすい河辺林へと変えています。また、大量に出る竹の間伐材を竹炭や紙として有効活用する方法を研究し、犬上川流域の市民や行政とともに、竹林の管理及び資源として、竹材の有効活用の可能性を追求していきます。

■活動場所: 犬上川河辺林
活動頻度: 月に1回程度
代表者名: 横川史郎(環境科学部)
関係団体: 犬上川を豊かにする会
<http://www.f2d.net/usupini/>

17 おきくら

チーム名: エコキャンバスプロジェクト木楽部会(30名)

木楽部会

彼らは、地域で使われなくなった蔵の部材を譲り受け、学内に移設するという活動に取り組んでいます。地域の素材を、私たちの手によって、木工室として再生し、伝統的な木造建築や部材の大切さを知り、活用する方法を研究する「地域に開かれた活動拠点」とします。壁や内装の施工は、生きた伝統工法体験の場として専門家の助言を得ながら、学生の手で完成させます。

■活動場所: 彦根市えこや、大学
活動頻度: 月に2回程度
代表者名: 井上萌子(人間文化学部)
関係団体: ヤマザワ設計
<http://yonohouse.com/>

18 環境フェスティバルinぎおう

チーム名: P-S(6名)

P-S

野洲では、地域住民による環境づくりを進めるために、年に一度、地域の魅力を発見する「地域の魅力発